

4-4 アジア地域におけるネットワークの形成

4-4-1 アジア防災センターメンバー国の人的ネットワークの形成

アジア地域での防災協力を推進するうえで、アジア防災センターのメンバー国、アドバイザー国、オブザーバー等のカウンターパートとの人的ネットワークの形成は不可欠です。アジア防災センターでは、ネットワークの基本的要素である人的ネットワークの形成に力を注ぎ、アジア地域での防災情報共有を進めています。

アジア防災会議は、各国防災関係省庁の次官、局長、課長クラスが一堂に会する人的交流の貴重な機会となっています。

4-4-2 NGO アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN)

(1) ADRRN の設立

アジアでは、自然災害の軽減のため、政府、国際機関のみならず NGO が積極的な役割を果たしています。これらの NGO は、災害直後の救援活動はもとより復旧・復興活動、さらには普段からの防災教育や普及啓発活動といった災害予防の面でも、地元に着目した支援活動を展開しています。しかしながら、NGO 個々の対応には限度があるため、一層の行動力の向上とともに関係機関との連携が求められています。

アジア防災センターでは、アジア地域の防災・災害救援 NGO 同士が国境を越えてネットワーク化し、協力することを促進すべく、2002年2月、国連人道問題調整事務所 (OCHA) 神戸と共催で、アジア地域の防災関連 NGO16 か国 35 名の参加の下、「アジア地域の防災のための NGO のネットワークと協力に関するワークショップ」を開催しました。このワークショップを通じて参加者の合意が形成され、アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN、Asian Disaster Reduction and Response Network) を立ち上げて相互の協力を深めていくこととなった。アジア防災センターは OCHA 神戸とともにオブザーバーとしてネットワークの活動を支援していくこととしました。

特に2004年12月26日に発生したインド洋大津波以降、アジア地域で活躍する ADRRN は存在感を増し、津波被災国において、数多くの災害対応、復興、予防活動を積極的に行っています。

(2) ADRRN 年次会合

2008年11月3日から5日まで、ネパールのカトマンズで、ADRRN の地域ワークショップ・年次会合が開催されました。ADRRN 加盟の NGO25 組織、ネパール内務省、国連人道問題調整事務所 (OCHA)、オーストラリア国際開発庁 (AusAID)、アジア防災センターなどから約 40 人の参加者がありました。

年次会合の部では、バングラデシュ、ミャンマー、フィリピンからの新加入 NGO4 組織の紹介、ADRRN の事業、財政状況の報告などがあった。加盟組織数については発足

当時は 20 に満たないものであったが、31 組織に増加しており、活動規模・内容ともに拡充してきている。

実施中の事業として、インドネシア、スリランカ、インド、モルジブで 2007 年 9 月から実施されている SELAMT プロジェクトが紹介されました。対象国・日本の研究機関と ADRRN 加盟 NGO が協力し、EU 及び ISDR の支援を受け、インド洋津波被災地域のコミュニティ防災力強化を目的に、教育機関、住民の災害意識高揚等の研修を行っています。ADRRN のネットワークが、NGO 間、現地政府、研究機関とネットワークを結び、多面的に活動していることが確認できました。

アジア防災センターからは 2008 年 7 月にマレーシアで実施した、ADRRN 加盟 NGO を対象とする JICA 草の根事業（ワークショップ）の実施報告を行いました（「3-1-1 アジア NGO 防災研修（第 2 年次）」参照）。参加者は同事業に高い関心を示し、事業の継続、ADRRN への支援を期待する声が強くなりました。

さらに年次会合の部では 2008 年 12 月のアジア防災閣僚会議への ADRRN からのインプットとして、HFA 実施状況報告作成の進捗状況のレポートについても話し合われました。政府の防災計画・政策にコミュニティに根ざした PPP（官民連携）を加え、コミュニティ防災を担う NGO の発言力を高めるべきだという主張が多く上がりました。

ワークショップの部においては、ネットワークの強化をテーマに、ロンドンに事務局を置く ALNAP という組織からベン・ラマリナム氏を招き、ネットワーク論に関する講義があった。ALNAP とは 1997 年に設立された組織で、活動実績、財務状況など人道組織の諸活動等に関する社会に対する説明責任（アカウンタビリティ）能力向上を支援しており、国連機関、政府、NGO、研究機関を含む 60 のメンバー機関が加盟しています。

参加 NGO は防災分野での活動経験が豊富であり、また意欲的な組織が多く、年次会合・ワークショップを通じて、意見交換や情報共有がみられ、相互の活動に非常に有意義な場となりました。

他方、ADRRN 加盟組織が拡大するに伴い、比較的緩やかなネットワークである ADRRN 自身の活動体制、組織、財政上の難しさが予想され、今後の課題となっていくものと思われます。また、アジア地域を対象としているにもかかわらず、日本、韓国、タイ、ベトナム等からの NGO が未加盟である点についても指摘があり、加盟が望まれるところです。



図 4-4-2-1 ADRRN 年次会合